商業簿記・会計学　Part3　　棚卸資産

氏名	

点数	点/100点

各論演習 3-1

問1）
損益計算書（経常利益まで）を次の資料ともとに完成しなさい。

（資料1）決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

（単位：円）

繰越商品	127,500	売上	1,032,000
仕入	885,500		

（資料2）

① 仕入勘定からは、仕入割引4,000円が控除されている。

② 商品の期末棚卸高は次のとおりである。
　1）帳簿棚卸高　1,350個　　単価　各自推定円
　2）実地棚卸高
　　ⅰ　良品　1,310個　　単価170円（正味売却価額）
　　ⅱ　品質低下品　30個　　単価100円（正味売却価額）
　　なお、商品評価損は売上原価の内訳科目として表示し、棚卸減耗損は販売費及び一般管理費に表示する。

③ 当期の売上原価率は75%である。

解1）
（単位：円）

損益計算書

Ⅰ　売上高		
Ⅱ　売上原価		
1　期首商品棚卸高		
2　当期商品仕入高		
合計		
3　期末商品棚卸高		
差引		
4　（　　）		
売上総利益		
Ⅲ　販売費及び一般管理費		
1　（　　）		
営業利益		
Ⅳ　営業外収益		
1　（　　）		
⋮		

ジョイフルスクール 会計部

商業簿記・会計学 Part3　　棚卸資産

氏名	

点数	点/100点

各論演習 3-2

問1）
損益計算書（経常利益まで）及び貸借対照表（一部）を次の資料ともとに完成しなさい。

（資料1）決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表
×2年3月31日　　（単位：円）

繰越商品	508,000	売上	2,405,500
仕入	1,899,000	仕入戻し	30,000
		仕入割戻	52,600
		仕入割引	28,300

（資料2）決算整理事項

① 期末商品の評価は売価還元低価法（商品評価損を計上する方法）を採用している。

② 商品の各種売価に関する資料　（単位：円）

期首商品売価	584,200
原始値入額	639,200
期中値上額	79,200
同取消額	19,800
期中値下額	209,200
同取消額	15,500
期末商品実地売価	485,000

③ 商品評価損は売上原価の内訳科目とし、棚卸減耗損は販売費及び一般管理費に表示すること。

解1）
（単位：円）

損益計算書

Ⅰ 売上高		
Ⅱ 売上原価		
1 期首商品棚卸高		
2 当期商品仕入高		
合計		
3 期末商品棚卸高		
差引		
4 （　　）		
売上総利益		
Ⅲ 販売費及び一般管理費		
1 （　　）		
営業利益		
Ⅳ 営業外収益		
1 （　　）		
⋮		

貸借対照表

商品	

ジョイフルスクール 会計部

商業簿記・会計学　Part3	棚卸資産

氏名	

点数	点/100点

各論演習 3-3

問1）

当社は当期より販売目的で使用する商品の評価方法を総平均法から先入先出法に変更した。この変更は会計方針の変更に該当するため遡及適用する。よって、解答用紙に示した（　　）内に入る金額を求めるとともに、［　　］内には、増加または減少と記入しなさい。なお、収益性の低下による簿価の切下げおよび税金は考慮しなくてよい。

（資料）

	数量	単価
期首商品棚卸高		
総平均法	200個	@472
先入先出法	200個	@480
当期仕入高	2,800個	@502
当期売上数量	2,860個	-

解1）

① この変更により当期首の利益剰余金は（　　）円［　　］する。

② 当期の売上原価は変更前の総平均法によると（　　）円であり、変更後の先入先出法によると（　　）円である。

③ この変更により当期の利益は（　　）円［　　］する。

ジョイフルスクール 会計部

商業簿記・会計学　Part3　　棚卸資産

氏名	

点数	点/100点

各論演習 3-1

問1）
損益計算書（経常利益まで）を次の資料ともとに完成しなさい。

（資料1）決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

（単位：円）

繰越商品	127,500	売上	1,032,000
仕入	885,500		

（資料2）

① 仕入勘定からは、仕入割引4,000円が控除されている。

② 商品の期末棚卸高は次のとおりである。
　1）帳簿棚卸高　1,350個　　単価　各自推定円
　2）実地棚卸高
　　ⅰ　良品　1,310個　　単価170円（正味売却価額）
　　ⅱ　品質低下品　30個　　単価100円（正味売却価額）
　　なお、商品評価損は売上原価の内訳科目として表示し、棚卸減耗損は販売費及び一般管理費に表示する。

③ 当期の売上原価率は75%である。

解1）

（単位：円）

損益計算書

Ⅰ　売上高		1,032,000
Ⅱ　売上原価		
1　期首商品棚卸高	127,500	
2　当期商品仕入高	889,500	
合計	1,017,000	
3　期末商品棚卸高	243,000	
差引	774,000	
4　（商品評価損）	15,500	789,500
売上総利益		242,500
Ⅲ　販売費及び一般管理費		
1　（棚卸減耗損）		1,800
営業利益		240,700
Ⅳ　営業外収益		
1　（　仕入割引）		4,000
：		

ジョイフルスクール 会計部

商業簿記・会計学 Part3　　棚卸資産

氏名	

点数	点/100点

各論演習 3-2

問1）
損益計算書（経常利益まで）及び貸借対照表（一部）を次の資料ともとに完成しなさい。

（資料1）決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表
×2年3月31日　　（単位：円）

繰越商品	508,000	売上	2,405,500
仕入	1,899,000	仕入戻し	30,000
		仕入割戻	52,600
		仕入割引	28,300

（資料2）決算整理事項

① 期末商品の評価は売価還元低価法（商品評価損を計上する方法）を採用している。

② 商品の各種売価に関する資料　（単位：円）

期首商品売価	584,200
原始値入額	639,200
期中値上額	79,200
同取消額	19,800
期中値下額	209,200
同取消額	15,500
期末商品実地売価	485,000

③ 商品評価損は売上原価の内訳科目とし、棚卸減耗損は販売費及び一般管理費に表示すること。

解1）
（単位：円）

損益計算書

Ⅰ 売上高		2,405,500
Ⅱ 売上原価		
1 期首商品棚卸高	508,000	
2 当期商品仕入高	1,816,400	
合計	2,324,400	
3 期末商品棚卸高	400,000	
差引	1,924,400	
4 （商品評価損）	24,250	1,948,650
売上総利益		456,850
Ⅲ 販売費及び一般管理費		
1 （棚卸減耗損）		12,000
営業利益		444,850
Ⅳ 営業外収益		
1 （ 仕入割引）		28,300
⋮		

貸借対照表

商品	363,750

ジョイフルスクール 会計部

商業簿記・会計学　Part3	棚卸資産

氏名	

点数	点/100点

各論演習 3-3

問1）

当社は当期より販売目的で使用する商品の評価方法を総平均法から先入先出法に変更した。この変更は会計方針の変更に該当するため遡及適用する。よって、解答用紙に示した（　　）内に入る金額を求めるとともに、［　　］内には、増加または減少と記入しなさい。なお、収益性の低下による簿価の切下げおよび税金は考慮しなくてよい。

（資料）

	数量	単価
期首商品棚卸高		
総平均法	200個	@472
先入先出法	200個	@480
当期仕入高	2,800個	@502
当期売上数量	2,860個	-

解1）

① この変更により当期首の利益剰余金は（　1,600　）円　［　増加　］する。

② 当期の売上原価は変更前の総平均法によると（1,430,000）円であり、変更後の先入先出法によると（1,431,320）円である。

③ この変更により当期の利益は（　1,320　）円　［　減少　］する。

ジョイフルスクール 会計部